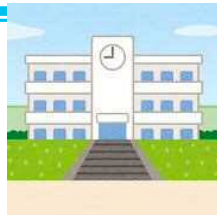




今年の課題図書



『エカシの森と子馬のポンコ』 加藤 多一／作 大野 八生／絵

(ポプラ社)



子っこ馬のポンコは本当に自由で、好きなところへ、好きなように歩いていく。でもある日、川の水の声も、風の声もいつもとちがって…。森の長老の木・エカシと不思議なカメムシたちとの暮らしの中で、少女からおとなになるポンコの成長を描く。

『サンドイッチクラブ』 長江 優子／作 (岩波書店)

W塾通いの小学6年生・珠子は、ぼんやりと夏休みをむかえた。そして、無心に砂像を作るヒカルと出会う。強烈な個性をもち、成績もトップクラスのヒカルは「戦争をなくすためにアメリカの大統領になる」と言う…。異なる家庭環境や性格の少女たちの、ひと夏の成長を描く。



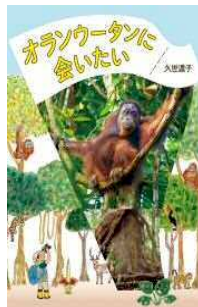
『おいで、アラスカ！』 アンナ・ウォルツ／作 野坂 悦子／訳 (フレーベル館)



12歳の少女パーケルが子犬のときに飼っていたアラスカは、悔しい事に自分をからかってきた転校生・スフェンの介助犬になっていた。スフェンは介助犬がいても不安や絶望を感じている。それを知らないパーケルは、真夜中スフェンの家にしのびこみ、アラスカを連れ去ろうと計画し…。

『オランウータンに会いたい』 久世 濃子／著 (あかね書房)

知らず知らずのうちに難しいと言われるオランウータンの研究を選択していた著者が、ボルネオ島の深い森の中で研究生活を通して知る様々な発見。オランウータンのユニークな生態に魅せられながら、絶滅の危機について考える。



過去の課題図書



2020年

『ヒロシマ消えたかぞく』 指田 和／著 鈴木 六郎／写真 (ポプラ社)

『月と珊瑚』 上條 さなえ／著 (講談社)

『飛ぶための百歩』 ジュゼッペ・フェスタ／作 杉本 あり／訳
まめふく／イラスト (岩崎書店)



『風を切って走りたい！』 高橋 うらら／著 (金の星社)



2019年

『ぼくとニケ』 片川 優子／著 (講談社)

『かべのむこうになにがある？』 ブリッタ・テッケントラップ／作 風木 一人／訳
(BL出版)

『マンザナの風にのせて』 ロイス・セパバーン／作 若林 千鶴／訳
ひだか のり子／絵 (文研出版)

『もうひとつの屋久島から』 武田 剛／著 (フレーベル館)



2018年

『奮闘するたすく』 まはら 三桃／著 (講談社)

『こんぴら狗』 今井 恭子／作 いぬんこ／画 (くもん出版)

『ぼくとベルさん』 フィリップ・ロイ／著 櫛田 理絵／訳 (PHP研究所)

『クニマスは生きていた！』 池田 まき子／著 (汐文社)